

富山みのり

道政だより 2022年 冬号



■富山みのり道政事務所 〒005-0006札幌市南区澄川6条4丁目2-1澄川ビル2F
TEL: 011-813-7733 FAX: 011-813-7778

URL <http://minori-hatakeyama.jp>

■北海道議会民主・道民連合議員会 〒060-0002札幌市中央区北2条西6丁目

Mail minori@minori-hatakeyama.jp

この通信の配布については、郵送・全戸配布・街頭配布等で行っています。



予算特別委員会で委員長を務める

【いあいさし】
いつの間にか空気が冷たくなつたと感じてから、瞬間にすっかり冬になりました。少し遅くなりましたが、北海道議会第3回定例会の報告と、第4回定例会のお知らせです。
新型コロナウイルスは終息のきざしが見えず、今年はインフルエンザが流行するとも言われています。2年前のような行動制限はありませんが、医療現場は既にひっ迫しているとの声も聞かれます。感染拡大防止にできるだけ努めてまいりましょう。私も新型コロナウイルスとインフルエンザ両方のワクチンを接種しました。どうぞみなさまもご自愛ください。

今年私は私にとつていろいろな出来事がありました。春には議員事務所でのインターンシップである大学所生を受け入れ、初夏には小さく生まれた赤ちゃんの母子手帳を補完するリトルベビーハンドブックを知りました。初めての経験や、知らなかったことを知る機会に恵まれたことは得難い経験です。また、議会での質問に対し、以前から交流のあった自主夜間中学に携わる方から、「良い答弁を引き出してくれた」という言葉をいただいた時には、とても充実した気持ちになりました。
中学校夜間級(夜間中学)は、全国では15都道府県に40校設置されており、本道では2022年4月に念願だった北海道初の公立夜間中学「星友館中学校」開校したことも喜びのひとつです。いろいろな立場の方からお話を伺い、学びを得ることが活動の源となります。それは具体的にでなくとも、何気ない日常の会話からでも政策のヒントが生まれることはあると思っています。何かのきっかけで富山のことを思い出すことがありましたら、ぜひお話を聞かせてください。

第4回定例道議会



2022年12月2日 代表質問に立つ

北海道議会第4回定例会は、11月29日から12月15日まで開催予定です。
富山みのりは12月2日、民主・道民連合を代表して質問に立ち、知事の政治姿勢や新型コロナウイルス感染症対策、医療福祉問題、経済と雇用対策、エネルギー政策や1次産業の振興策、教育課題などについて知事に質しました。

お悩み相談窓口



子育てや介護などの家族の悩み、人間関係や働きやすい環境などでお悩み・お困り事がありましたら、お気軽にご相談ください。

minori@minori-hatakeyama.jp

原子力防災訓練に参加

10月31日「2022年度北海道原子力防災総合訓練」を視察しました。

今回は余市町で孤立地域からの装甲車による避難と、外国人避難者の相談対応、バスによる住民避難、車両や住民の検査や簡易除染、共和町のオフサイトセンターでの会議など、それぞれ一部ですが実際に見学してきました。

訓練はコロナ禍で後志地方西部を震源とする震度6強の地震が発生、泊原発3号機原子炉の一部冷却材が漏れ、原子炉が停止したという想定で行われました。

孤立地域からは巡視艇や陸上自衛隊のヘリコプターなどでの住民避難訓練も実施されましたが、高齢者がヘリのステップを上るのは難しく、輸送人員は限られます。全員を搬送するまでにどの程度時間がかかるか分からないなどの課題も見えました。また外国人の避難所開設訓練では、外国人避難者へのオンライン通訳の音声も乱れたりと、多言語対応アプリのQRコードが読み込めないなどの不備が相次ぎ、多言語の情報伝達に課題を



自衛隊の装甲車で移動の様子



原発防災訓練を視察する道議会議員団

残りました。
道の訓練は、原子力防災関係機関が協力して防災対策を円滑に実施できるよう、関係者の防災技術の向上や住民の防災意識の高揚、防災対策に関する理解促進を図る目的で毎年実施されています。住民参加は2年振りとなりました。

富山みのり 活動のひとコマ



6月21日
第2回定例会議で一般質問に立ち、知事・教育長に質しました。



7月24日
7月23日から2日間、全国地方議員交流研修会が3年ぶりにリアル開催されました



10月3日
9月30日～10月3日の予算特別委員会分科会で第2分科会委員長をつとめました

- ### 富山みのりプロフィール
- 1965年11月7日 網走生まれ
 - 1984年3月 北海道網走南ヶ丘高等学校卒業
 - 1986年3月 北海道武蔵女子短期大学卒業
 - 1987年1月 日本電信電話株式会社入社
 - 2015年4月 北海道議会議員初当選
 - 2019年4月 北海道議会議員2期目当選

- ### 北海道議会
- 民主・道民連合議員会 副幹事長
 - 総合政策委員会 理事
 - 人口減少問題・地方分権改革等調査特別委員会 筆頭理事



11月25日
北海道リトルベビーサークルゆきんこ主催「世界早産児デー写真展in室蘭 ～リトルベビーの軌跡～」



11月3日
〈真駒内五輪球場〉
札幌南ライオンズクラブ旗争奪の南区少年軟式野球連盟チーム対抗マラソン大会

活動報告

10月から11月にかけて、同僚議員とともに調査活動をしました。



▲次回開催の大阪市に大会旗を手渡す

高齢社会をよくなる女性の会 in 小田原

高齢化社会における女性の立場をより良くするため、さまざまな提言をしているNPO法人「高齢社会をよくなる女性の会」全国大会 in 小田原に参加しました。

全国大会は各地で開かれており、今回で41回目となり(11月5日〜6日)で会員など600人が参加しました。5日は「円融合」地域で生きる私の「ミライ」をメインテーマに、4つの分科会が行われました。私は「高齢者とIT・誰一人取り残さないデジタル社会へ」「高齢者と防災・私のそなえ」我が家の備蓄」に参加しました。タイトルになった「円融合」は、小田原出身の二宮尊徳翁が提唱した「万物は一つの円の中でお互いに影響し合い一体となること」で、結果が出るという教えです。

6日は都内初の民間から公立中学校長となった教育改革実践家の藤原和博さんの基調講演が開催されました。AI、デジタル時代に「個性としての自分」をどのようにするか、自分の価値を高めていく生き方について、とても分かりやすく楽しい時間でした。シンポジウムには樋口恵子理事長はじめ、前小田原市長の加藤憲一さんや、日本社会事業大学理事長の名取はにわさん他、小田原で地域や次世代のために取り組んでいる方々の報告もありました。次期開催地大阪に大会旗が渡され、2日間のプログラムが終了しました。



▲電車の車内に自転車を持ち込む乗客

山口県山口市と島根県雲南市を視察

11月16日道議会 人口減少問題・地方分権改革等調査特別委員会では、山口市にある産業交流スペース Megriba(めぐりば)を視察しました。何かを始めたい人を応援する場として、イベントも開催できるスペースやシェアキッチン、チャレンジショップがあります。移住者によるビジネス交流会など、人の縁をつくり「ふるさと」と思えるまちにしたいとの思いを感じました。

調査2日目は、島根県雲南市にある株式会社吉田ふるさと村を視察しました。かつて、たたら製鉄で栄えた歴史ある村がだんだんと衰退し、人口流出で危機感を持った住民が中心となり設立した、資本金全体の27%を個人が占める地域密着型の第3セクターです。当初は議会の反対もあったそうですが、赤字でも支援は受けられないことを条件に進めたとのこと。また、日本人のソウルフード、たまごかけご飯専用醤油はここが元祖。「なるべく地元の島根県産と国産の原料を使う」ことがポリシーで食品添加物を使わないことで人



▲起業創業支援や中小企業支援等の様々な悩みを気軽に相談できる施設Megriba(めぐりば)



吉田ふるさと村が火にまわすた、元祖たまごかけごはん専用醤油「おたまはん」

自転車条例で滋賀県を視察

10月23日北海道自転車条例推進会議で滋賀県を視察しました。滋賀県では「滋賀から新しい自転車文化を創造する」ことを目指し、滋賀県自転車条例を作りました。この条例では自転車の安全で適正な利用をすすめるため、県や県民、事業者、団体のすべきことや役割を定めました。また、自転車で琵琶湖一周200kmを走る「ピワイチ」を推進する「ピワイチ条例」を今年4月1日から施行しました。近江鉄道に自転車を持ち込めたり、サイクリングを楽しんでもらうための施策がたくさん。また、交通マナー向上のための取り組みを様々な行っています。

主な審議経過について

9月13日から10月7日まで令和4年第3回定例道議会が行われました。一般会計補正予算、「朝鮮民主主義人民共和国のミサイル発射に抗議する決議」などを可決して閉会しました。

第3回定例道議会

開会日冒頭では、原油価格や物価高騰等に伴う事業者の経営環境や道民生活への影響に対応した緊急経済対策に要する経費をはじめ、当面措置を要する経費などの令和4年度一般会計補正予算案を提出しました。

また、最終日には、電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金を活用した追加提案補正予算が提出されたことから、質疑を行い、令和4年度一般会計予算は3兆3,205億6,200万円となりました。



代表質問では、知事の政治姿勢を質しましたが、質問の主旨には明確に応じず不誠実な答弁に止まり、3年半に及び任期の自己評価と残りの在任期間における道政運営については、自身の決意や思いは述べたものの、肝心な部分には触れることなく、全く具体的に欠ける答弁に終始しました。

国葬への対応については、「参列する」と判断した理由や政府の「喪の服し方」への受け止めを質しましたが、「正式な案内があり、日程的にも支障がないことから対応する」と「従来からの考え方を繰り返すに止まりました。」

ウクライナ情勢によるロシアとの関係悪化が北方領土返還要求運動にも影響していることを踏まえ、墓参の再開や領土返還の決意を知事自身が元島民へ伝えるべきと指摘し

ましたが、ICTや広報媒体等などを通じて自分の思いを発信していくと述べるに止まりました。

エネルギー政策では、国は原発回帰へ方針転換したが道のエネルギー政策等の基本方針は変更すべきではないとの問いに、国はあらゆる選択肢を検討しており、これまでの政策との整合性も含め、国の議論を注視していくと返答しました。

北海道と本州を繋ぐ「北本連系設備」について、まず道内の送電線網を整備し、再エネ自給を向上すべきではとの問いには、特性を活かした多様な電源構成とすることが重要であり、再エネを最大限活用していくと返答。また国の方針転換に右往左往せず、再エネの主力電源化を目標



指すべきとの再質問には、道内送電網や地域間連系線の増強等で脱炭素化に貢献していくと述べました。

当面する課題と対応

1. 国葬への対応について

今例会で会派は安倍晋三元首相の国葬に関し、参列すると判断した理由を質してきました。

政府が招待状を送って「踏み絵」を迫ったに等しい今回の国葬は、地方自治体にとって如何なものなのか。国論を二分する問題を強行した国葬に公務として公費で参列したことにより、道民の間でも疑問の声が上がっています。知事には道民に対して丁寧な説明が必要であり、今後の推移に注目しています。

2. 道政検証について

会派は鈴木知事1期目の道政運営の検証を行いました。「道民目線」重視を前提に失敗を恐れず、自ら正しいと信じた方針に則って行動する知事の姿は、年を追うごとに確認できなくなりました。知事が提唱する『輝き続ける北海道』がいつ実現するのかを様々な場面を通して追及していきます。